



東大寺 212 世別當 筒井寛秀 筆

【発行】

奈良県肢体不自由児・者父母の会連合会

<http://www.narakenshiren.gr.jp>

【発行責任者】 松本倫子

【編集責任者】 菰口悦子

【メールアドレス】

[honbu@narakenshiren.gr.jp](mailto:honbu@narakenshiren.gr.jp)

今年は無年、仲良く穏やかに過ごせますように

会長 松本倫子



新年明けましておめでとうござい  
ます。皆様ご家族おそろいで佳  
いお年をお迎えになったことと存  
じます。旧年中は大変お世話にな  
りまして、ありがとうございます  
た。今年もよろしくお願い申しあ  
げます。

今年は一つじ年、私は六度目の  
年女になります。この歳で県肢連  
の会長を引き受けている姿は、若  
い頃の私からは想像できないこと  
です。毎年毎年やらねばならない  
ことをこなしているうちに、川が  
流れるように自然とここまでやっ  
てきた感じがします。会員皆様の  
障害のある子どもと親の幸せを求  
めることが、活動の第一義でした。  
活動を進めるとき、本部役員は、  
会員の和、優しさ、団結を大切に  
してきました。そしてどうすれば  
会員皆様の障害福祉に対する意識  
が向上するのかと、たえず考えて  
きました。ともすれば本部役員が  
突っ走ったかもしれないが、今  
では奈良県肢連は県行政からも、  
他府県の父母の会や全肢連から  
も、よくやっているとという評価を  
得られるまでになりました。地域

で暮らす子ども達に直接関わりが  
ある地域父母の会の質を高めてい  
ただくことはとても大切です。そ  
こで本部役員の活動の仕方や意識  
を地域に持ち帰り、各地域の活動  
や市町村への折衝に利用してい  
たいと思ひ、会の組織改革を  
しました。地域の理事に、研修部  
会、事業部会、広報部会のいづれ  
かに所属していただきました。ま  
た、研修部会には理事の他に各地  
域から選出された部員も参加して  
いただいています。まだ道半ばで  
すが、近い将来成果が出るものと  
思っています。

会員皆様の障害の重い人たちの  
福祉は、進んでまいりましたが、  
中程度の障害者の通うところが少  
なくきちんとした整備が必要だ  
と、私は常々思い続けてまいりま  
した。具体的には、「福祉の店わ  
かくさ」と「もえぎ介護事業所」  
の施設整備をして、奈良県内の中  
程度の障害者が集まれる、在宅生  
活の拠点をつくることでした。昨  
年思い切って、国の施設整備費の  
申請をしましたところ、国と県の  
予算を付けていただき、立派な建

物が、近鉄九条駅前に完成しまし  
た。施設は、県肢連では運営でき  
ませんので、私が理事長を引き受  
け、「NPO法人わかくさもえぎ」  
が運営母体となりました。県肢連  
のお母さんにも、障害者の皆さん  
にも使っていただいたいの思いま  
すし、働いてくださる方にも来て  
いただきたいと願っています。福  
祉の店わかくさは今までどおり営  
業していますのでよろしくご利用  
ください。

年末年始四泊五日で四十五歳の  
息子は我が家で過ごしました。入  
所施設で沢山の方々にお世話にな  
って十年経ちました。夜の睡眠状  
態はどうか気になっていまし  
たが、穏やかに熟睡しましたので、  
ひとまずほっとしました。夜中、  
体位の変換も必要ありませんでし  
た。これは、週一回ですが体が触  
っていたたく「いきいき活動」の  
成果ではと思っています。七十二  
歳を超えた持病のある私たち夫婦  
です。ので、全面要介護の息子の移  
乗が特に大変で、双子の弟の手伝  
いでなんとか五日間過ごしまし  
た。意思表示をする言語を持って  
いませんが、意思表示の術は持つ  
ています。そんな息子が快食・快  
腸快便・快尿で穏やかな表情でい  
てくれると親はほっとするので  
す。正月三日のお昼に、施設に戻

ると自分で決めて、自分の部屋に戻っていききました。どうやら親の介護力がないことがわかっていて、後ろ髪を引かれる思いですが、自分で生きていくという息子に拍手を送ります。職員さんに感謝し、皆さんと信頼関係を一層深くして、彼の生活を託したいと思います。

障害のある子を育てている家族はいろいろな喜怒哀楽を共有していますので、障害当事者とは、本人、父母、兄弟姉妹を含めた家族みんなと言えるでしょう。高齢の親にとつては、兄弟姉妹の存在は特に大きくなります。親亡き後も踏まえ、親は元気な内に、支援のいる障害者の後見的な役割、財産管理と身上監護について兄弟姉妹にしっかりと話しておく必要があると、成年後見制度の研修を終えて思いました。

千支のひつじの絵は、どれも角を丸めて、やさしい目で、ふっくらした毛に包まれています。漢字の「義」は「羊」に「我」と書き、美しき我が心は義なりという意味になるそうです。「羊」は偶蹄目ほ乳類に入るが、馬のように速い脚はなく、牛のような力もなく、山羊に似ているが角丸く、柔らかいちぎれ毛が特質であり、そのちぎれ毛がウール製品となり、皮も

含めてムートンとして重宝されます。

『さあ、今年は羊のように温和で、生き方は美しく、義を尊ぶ生き方に努めたいものです。何卒よろしくご指導ください』と、八十五歳の中学時代の恩師から賀状をいただきました。

私も皆様のご指導をお願いします、併せて皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。



障がい福祉計画に沿ったまちづくりを

榎原市社会福祉事務所

所長 福井 和夫

新年明けましておめでとうございます。

奈良県肢体不自由児・者父母の会連合会の皆様には、長年にわたる活発に活動を展開されておられますことに対し、深く敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

現在、榎原市では、平成二十七年から三年間の計画を定める榎原市第四期障がい福祉計画の策定を行っているところです。障がい

福祉計画の策定については、障害者総合支援法で定められており、三年ごとに見直すことになっていきます。

新しい計画では「障がいのある人もない人も だれもが いきいきと暮らせる住みよいまちかしはら」を計画の基本理念にしております。

住み慣れた地域で、いきいきと暮らし続けたいという願いは、誰もが持っているものです。

榎原市では、新しい計画の中で、そのことを実現するための様々な方策について検討し、定めていききたいと考えています。

障がいのある方の地域における生活、就労、また社会参加を推進するためには、障がいに対する理解が欠かせません。しかしながらまだまだその実現には至っていないのが現状です。

今後、障がいに対する理解を深めていくために、普及啓発事業をはじめ、バリアフリーの推進、体験事業など、障がいというものを皆さんに知っていただき、正しい理解をしてもらえるような取り組みを進め、また、障がいのある人が、安心して生活できるように、相談支援の体制も充実させる必要があります。悩みや不安を一人で抱えたり、また閉じこもったりされ

ることのないよう、安心して利用できる相談窓口の機能強化と周知を行ってまいります。

引き続き、皆様のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



障害児教育に携わって

奈良県立奈良養護学校

校長 下岡 久志朗

私が、教育の原点でもある「障害児教育」に携わったのは、折しも養護学校義務化の年、昭和五十四年でした。それまで、学校に通学できない児童生徒は、就学免除や猶予がされていましたが、在宅訪問指導から在宅訪問教育へと変わった記念すべき年にも当たり、県立明日香養護学校の在宅訪問教育の教員として勤務することになりました。その当時、障害児のかかわりは初めてで、私が担当する子どもや保護者と共に、様々な取組を試行錯誤しながら進めたことにより、障害児教育の基礎・基本を学ぶことができたと感謝しています。

あれから三十五年間、肢体不自由

由教育一筋に務めることができま  
した。「二十一世紀の特殊教育の在  
り方」が問われ、福祉や教育は見  
直され、平成十九年四月より、特  
殊教育から特別支援教育に移行し、  
障害児を取り巻く教育環境は大き  
く変化してきました。一人ひとりの  
教育的ニーズに応じた特別支援  
教育がスタートし、共生社会の形  
成に向けたインクルーシブ教育シ  
ステムのための特別支援教育の推  
進が叫ばれています。

そのような中、平成二十二年、  
本校の校長として就任し、学校経  
営に携わることになり、時代の流  
れに沿った本校の教育の在り方を、  
子どもたちや保護者のニーズを真  
摯に受け止めながら、教職員と共  
に進めています。松尾芭蕉が残し  
た言葉の中に「不易と流行」があ  
り、教育関係者の間でもよく使わ  
れています。どんなに社会が変化  
しようとして時代を超えて変わらな  
い価値のあるもの」は、本校にも  
たくさんあります。また、「時代の  
変化とともに変えていかなければ  
ならない課題」もたくさんありま  
す。どちらも大切です。その時々  
に合わせ変えていく勇氣も必要で、  
このことを見極めつつ、子どもた  
ちの学びを追求していかなければ  
と考えています。

今、本校は、教育目標「よりよ

く生きていける力を育てる」を念  
頭の下、卒業後を見据えた「地域  
で豊かに生活していけるために」  
を目指し、「確かな学びを育む授業  
づくり」をテーマに、自立活動を  
充実させる取組を進めています。  
一方ICT（情報通信技術）を活  
用する取組にも力を入れ、その成  
果を地域支援・進路支援の中にも  
反映させていくためのネットワー  
クの構築を図ることにより「セン  
ターの機能の役割」を果たす特別  
支援学校へと新たな展開も進めて  
います。

今後、ますます地域連携を深め、  
「地域の教育力」を活かした「地  
域と共にある学校づくり」を目指  
し、つながりを大切にしていかな  
ければいけないと考えています。  
そのためには、これからも教育環  
境を整備し、適切な指導・必要な  
支援ができる人材を育成するとと  
もに、県肢体不自由児・者父母の  
会連合会の皆様や、関係機関の皆  
様と連携を深め、子どもたち一人  
ひとりを見据え、健やかな成長を  
願い、障害児・者の良き理解者と  
して、子どもたちや保護者に寄り  
添ったかわりを大切にしていき  
たいと考えていますので、今後一  
層のご理解とご支援をいただきま  
すようよろしくお願い申し上げま  
す。

## 施設の紹介

株式会社 萬葉

万葉介護サービスセンター

代表 上山 三幸



平成二十五年一月一日に、重症  
心身障害児の方のみが利用できる  
放課後等デイサービスを開始し、  
三年目を迎えました。平成二十三  
年から放課後等デイサービスを運  
営しており、重症心身障害児の方  
も数名、知的障害児の方と一緒に  
御利用して頂いております。当  
時は重心の方の利用はそれほど多  
くなく、安全にサービスが提供で  
き、また子供たちにとっても、大  
きな声やはしやぎ声が飛び交うデ  
イサービスは刺激的な場所であつ  
たように思います。

一年ほどが経ち、重心の子供た  
ちがデイサービスを利用している  
時間にお風呂に入れたら帰宅して  
からも、ゆったりと過ごせるので  
はないかな？と思うようになり、  
やがて、その思いはどんどん膨ら  
み、もっとそれぞれの子供たちの  
ニーズに合ったサービスを提供し  
たいと強く思うようになりました。  
そしてそのニーズに応えられるよ

うスタッフと検討を重ねた結果、  
重症心身障害児の方のみが通える  
デイサービスを設立することを決  
めました。

デイサービスを始めるにあたり、  
一番熟慮を要した問題は医療的ケ  
アのある子どもさんの受け入れと  
対応でした。私は在宅支援を長く  
行なってきたおり、条件制度的に  
も、医療的ケアの必要な子供たち  
の生活の幅が広がらないこと、親  
の介護負担が軽減できないこと等、  
多くの課題があることを、在宅ケ  
アをしながら痛感しておりました  
のでデイでは医療的ケアの必要な  
子供さんを受け入れたい、という  
強い思いをもっていました。です  
が思いだけでは足りなく、子ども  
たちの命を守るということを大前  
提にマニュアルや緊急時の対応、  
個別支援ノートやチェック表を作  
成し子供たちを知ること、守るこ  
とに力を注いできました。

デイで過ごしてもらうことは子  
供たちの日常を知る事が必須であ  
り、それには保護者の方や学校の  
先生方のご協力が必要不可欠でし  
た。保護者の方には一日を「まん  
よう」で子供と共に過ごして頂き、  
関わり方や支援方法等教えて頂き  
ました。また子供たちが通う学校  
に出向き、関わっておられる先生  
から詳しい情報や食事の食べ方、



- 移動方法、コミュニケーション方法に加え学校の中で見ることが出来る表情や繊細さ・強さやたくましさなどもおそわりました。また先生方もデイまで足を運んでくださり、スタッフに食事介助や動作法等数々のご指導があつて、「まんよう」で医療的ケアの必要な子どもたちを安全に受け入れケアする方法を確立することができました。
- ③ デイサービスで重心の子供たちと過ごす時間を重ね、また保護者の方との関わりが深まるにしたがつて密着しないと見えない大変さを知り、「まんよう」の役割・責任について改めて感じることもありまます。事業所の役割はそれぞれの事業所の持つ強みを生かし、利用されている方のニーズに対応したサービスを提供し、その方の生活が豊かになることだと私は考えています。
- ② 「まんよう」の持つ強みは、ヘルパー事業、訪問入浴、ガイドヘルパー、生活介護、短期入所事業等を併設しており多様化するニーズに対応することが出来ること。
- ① 全スタッフが子供たちを大切に思い、関わる事が出来る経験豊富なスタッフを配置していること。
- ③ 家族も子供さんと一緒に過ごす

したり、食事をしたり、子供たちがのびのび過ごすことのできる家庭的な環境にあることに、あると思っています。

今二年が立ち、胃ろうや気管切開、吸引や吸入等数々の医療的ケアの必要な子供たちが学校と自宅以外の居場所を楽しみや刺激を感じてくれています。また私たちスタッフも子供たちを知ることで不安なく色んなことに取り組み、チャレンジすることができるようになりました。医療的ケアの必要な子供たちが安心して通えるデイサービスをつくれたのは、たくさんの方のご協力と子供たちを真に思う気持ちをもった方々のお陰であると心から感謝し、皆さまの思い・願いを心に留め、今後も命を守る大きな役割と責任を強く持つて、笑顔の絶えないデイサービスにしていきたいと思えます。



わかくさもえぎ

障害者生活支援センター

施設長 若狭 英美子

すばらしい建物がOPENしました。明るく、広く快適です。ま

だ一ヶ月あまりですが、居心地の良さを実感しています。

NPO法人わかくさもえぎは平成二十三年五月に奈良市の近鉄西ノ京駅近くに開所しましたが、二階を使えない不自由さと建物の老朽化を少々心もとなく思っております。

「それでは、新しい施設をたてましょう。」「え、ウソでしょう？」という半信半疑のやりとりをしていくうちに、松本理事長の強い気持ちを後押ししてくださる各方面の皆様のお力添え、さらには事業に対する補助金の交付がおりるという幸運にも恵まれて、K君の「エレベーターがあれば、二階にいける」という願いが現実のものとなったのです。昨年十一月二十三日にはご来賓・関係者各位・利用者ご家族にお集まりいただき、めでたく竣工式を行わせていただきました。当日は、父母の会の役員の皆様にもお手伝いいただき、大変ありがとうございました。

「通える場所があったらいいな」「ショートステイができたらいいな」というたくさんの方々の思いと未来のつまった本当に暖かな建物です。建てて下さったのは中西建設株式会社様。使い勝手を何回も打ち合わせし、動線を考え、限られたスペースを最大限有効に使

えるようにしていただきました。

おかげで、利用者さんが「広くなって動きやすくなった。」「トイレの順番を待たなくても行ける」と喜んでくださっています。「家にいるみたい」と皆がくつろげる床暖房のおかげで床に降りて身体を伸ばすこともできるようになりました。また、広いキッチンで調理の幅も広がりがそうで楽しみです。今まで以上にさをり織りや手芸に取り組む姿にも熱が入ってきました。そんな様子を、何が出来るのか周りで見守ってくださっていた近隣の皆様が、ちらほら覗いて下さるようになってきました。

今後、この大和郡山市九条町で「わかくさもえぎ」が地域に根付いて未永く愛されるように真剣に取り組んでいきたいと思えます。何よりも、毎日、利用者様が笑顔で通ってくださることが出来るようにスタッフ一同力を合わせていかななくてはなりません。近鉄九条駅からのアクセスも近く、奈良ファミリー・櫃原両店の「福祉の店わかくさ」の利用者様もいっしょに活動しています。年末には恒例のクリスマス会を開くことが出来ます。それぞれの店の立場は違いますが、今まで培ってきた授産品や野菜・特産品・証紙・印紙などの販売によるお客様とのパイプ

を大事にしながらか、新しいものも取り入れて「わかくさもえぎ」らしさを一つずつ積み重ねていきたくいと思っています。また、新しい利用者の方を受け入れられる体制づくりもすすめなければなりません。

まだまだ、これからが大変だというのが本音ですが、皆様のご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。



第四十九回  
近畿肢体不自由児者  
父母の会連合会 大阪大会

◆平成二十六年七月五日(土)

◆アネックスパル法円坂

なにわの宮ホール

大会テーマ

「楽しくいきいきと暮らしたい

親も子も！」

分科会の報告



第一分科会

「地域生活でのよりよい暮らしを求めて」グループホームでの生活について」

本部役員 漸井 みゆき

吹田市の社会福祉法人さつき福祉会 グループホーム施設長・きようさん大阪支部 グループホーム部会長の伊藤成康氏の講演が行われました。

さつき福祉会は市内に十四か所のグループホームを運営し、新たにオーナー建設の身障者向け賃貸ホームと、「障害者のくらしの場」 「障害者医療とくらしを結ぶ拠点となる施設」として暮らしの支援センターを準備中とその充実した内容は素晴らしいものでした。

さつき会では公営住宅五カ所(大阪府下のグループホームの三分の一は公営住宅)、自前建設ホーム二カ所、一戸建て賃貸住宅六カ所、マンション一カ所に平均年齢四十五歳、最高七十五歳の六十五名が生活しています。夜間・土日の職員配置に健康管理も充実、仲間(利用者)の声や想い(声なき声)を大切に、地域の住民として暮らしを楽しめるように支援をされています。スタッフのチームワークと利用者の異変を見極める力が重要で若いスタッフをどう育てるかが課題とのことです。吹田市独自の家賃、人件費、開設時の設備補助がありますが、重度障害者対応型のバリアフリーの自前建設

ホームについては、なんとか建てることはできても職員配置、入院時の支援などで運営が厳しく、毎年一千万円の赤字は法人全体でカバーしているそうです。今後、父母の会として重度障害者も安心して地域で生活ができるように補助金・基本報酬の加算など行政に要望していかなければならないことを強調されました。そしてグループホームは両親ともに元気なときから利用し、家族の絆を大事にしながらも子離れしていくことが大切とのことでした。

暮らしの課題は多様で困難ですが、あらゆる社会資源やマンパワーとの連携作りを大切にし、親子も、どのような人生を送ることが幸せかを考えましようと思われま

くられました。参加者から、親の会の資金の捻出について詳しく知りたい、どんなに重度でも地域生活ができる可能性があることがわかり希望も持った、地域で検討していくうえで参考になった、人とかかわりや思いの強さを感じた、どのような暮らしをしたいのかを考え今できることを将来に向けて整えておきたい、あきらめず声をあげて行政を動かしていきたいなどの感想がありました。

第二分科会

「入所施設での質の向上を高めるために」当事者は何を求めるか、施設はどこまでできるか」

本部役員 前田 妙子

社会福祉法人恵生会理事長、四季の森なごみ(身体障害者入所施設)園長である野田重夫氏の講演でした。ご自身も重複障害を持つお子さんの親御さんで、知的の更生施設から始められ、現在では八か所のグループホームを拠点に、半径五百m以内に法人経営のすべての事業所を集約させた地域密着型で手厚い生活支援を提供されています。

その中で、身体障害者の入所施設である四季の森なごみについて、以下のような取り組みの紹介がありました。

- ① 施設環境の充実(ハード面)
- ② 医療面の充実: 機能訓練(P T、O T)
- ③ 訪問歯科医による口腔ケア・嚥下内視鏡検査  
必要に応じて整形外科、精神科、泌尿器科による診察
- ④ 地域交流: コンサート、能、落語等
- ④ 日中活動: 音楽療法、陶芸教室、外出支援、ピザ窯でピザ

作り、花セラピー等

野田氏は、「入所施設での質の向上のために何が必要か」という分科会のテーマに対し以下の要素を挙げておられます。

\*サービスを提供する職員の量的・質的な充実。課題として、人材不足の解消、職員の処遇改善の向上、多様な障害の特性を理解。

\*利用者自身の意向を反映した適切なサービス提供、利用者主体の生活支援。課題として利用者・家族・職員相互の理解と信頼関係。他

\*安全で快適な施設の構造や設備等の充実。課題として障害特性の多様性に対応できる施設規模・ハード面の充実。

\*医療面の充実。課題として、看護師の安定確保、緊急時の医療機関との連携確保。

\*安定した財務基盤の構築。課題として施設入所支援単価は生活介護の約三十％。土日の生活介護は反映されていない。

同じテーマでディスカッション形式で行った一昨年の奈良大会でも、同じような課題が出されてい

ました。利用者・家族・職員の相互理解と信頼関係の大切さを再認識し、特に、入所支援単価には医療面の

ケアをしても介護報酬に含まれ、診療報酬が入らないことと、土日の日数がカウントされていないこと（生活介護支給日数11月の日数マイナス8日）は施設経営上苦しいこと。我々の子供たちが直接お世話になる職員さんの処遇改善と人員確保の重要性。これらのことを、全肢連を通して根気よく国に要望していくことが、我々親の大切な役目ではないかと思えます。



第3分科会

「医療的ケアを必要とする人たちの暮らしの場」〜どのような支援やサービスがあれば安心して暮らせるか〜

本部役員 横谷 京子

堺市立重症心身障害者（児）支援センター「ベルデさかい」の講演でした。

「ベルデさかい」は、平成二十四年に堺市が開設した、入所五十名、短期入所十名、通所と外来リハビリ等のある重症心身障害者ための施設です。長年障害児者に関わってこられた児玉先生から肢体不自由児施設の歴史から今後の重症者

の受け入れの多様化などをお聞きしました。

在宅の方の参考になればと、腸閉塞、気管切開、喉頭気管分離手術、胃瘻造設など「ベルデさかい」での医療ケースについての紹介がありました。またリハビリは小さい時だけのものではなく計画を立てて各ステップに応じて訓練するのがリハビリの役割だという話がありました。

大阪では二つの事業が新しく始まりました。一つは大阪市から予算がついた「医療コーディネート事業」です。事前に登録をしておき、急病時に拠点施設の窓口連絡すれば、ドクターや看護師が受け入れ先を調整してくれる。もう一つは「ショートステイ連絡協議会」で、大阪府内の三施設でコーディネート

のネットワークを作っている。在宅者にとって夜間や休日に急病になった時受け入れてもらう病院を探すのは大変なことです。重症児者を看てくれるかどうか、障害を理由に断られたりしないか不安を抱えています。在宅生活を長く続けるにはショートステイの利用も必要となってきます。

このようなコーディネート事業があれば安心して地域で暮らしていきます。まだ始まったばかりの事業ですが、これから成果を

上げて他県にも広がっていけばと思います。

第四十七回 全国大会

◆平成二十六年九月六日(土)〜七日(日)

◆ロワジュールホテル豊橋

記念講演

「障害者スポーツとQOL」

寸劇

「学校生活や日常生活での提言」

基調講演

「障害児(者)医療学寄付講座」と医療的ケアについて

シンポジウム

テーマ「共生社会の実現を目指して」

災害予防講演

「体験しよう備えよう」

「さくらピア避難所体験の取り組み」

※内容の報告は次号に掲載いたします。



参加者の感想

全国大会に参加して

生駒郡 久門 利子

初めて全国大会に参加させていただきました。大会のテーマが「住み慣れた地域で、共生社会の実現を目指して」と題して、いろいろな方の講演や、シンポジウムが行われました。寸劇で豊橋や岡崎の肢体不自由児のお母さんが、日ごろ思っていることなど自由に話されていました。看護師の派遣の話は、私達も在学中は、よく頑張っていたことを懐かしく思い出していました。そして「卒業後は子供はどこへ」ということで相談支援員とのやりとりを寸劇で表現されていました。私の子供も通所で頑張っています。私のことを考える不安です。福祉の現場地域医療の実践報告など親の亡き後の支援では知らないことがたくさんあって勉強になり、参加してよかったです。と思いました。

最も興味があったのが災害予防の講演でした。避難所体験の取り組み、炊出しの体験、リュックサックの後ろにメッセージを書いて、どんなことをしてほしいのかがわ

かるなど参考になりました。今回、大会に参加し、知らないことがたくさんあってまだまだ勉強しなければならぬと思います。

地域指導者育成セミナー



◆平成二十六年十一月二十九日(土) 三十日(日)

◆パレス神戸

テーマ「成年後見制度」・「サービス等利用計画・相談支援の課題」

本部役員 田口 美智子

一日目は、演題「肢体不自由児者と家族のための成年後見制度」で、NPO法人パスネット理事長 上田晴男氏の講演があり、成年後見制度は、権利擁護の取り組みの一つであり、普通に自分らしくみんなと暮らすということを守っていくためのもの、判断の能力が不十分な本人が不利益とならないための制度という事で内容についてお話がありました。

グループ討議では

・肢体不自由児者、重症心身障がい者にとって、成年後見制度は必要か。

・身上監護

・代理権、代理権行使どう考えるか

について活発な討議がされ、グループごとの発表がされました。

入所の場合には必要な事が多いが、そのほかの場合、個々の状況に応じて違いがあるものの親は情報として、知っておくべきである。肢体不自由児者・重症心身障がい者にとっては、財産の管理等のほかにも身上監護が重要となり、どこでどのような暮らしをするか、どんな医療を受けるか、本人がどんな生き方をしたいのか、意思が伝えられなくても、本人らしい生き方とは、どんなものかを、親、家族で話し合っておくことは、とても大切ではないかと、まとめられました。

二日目は、「サービス等利用計画・相談支援の課題」でグループ討議があり

・相談支援で不安に感じていること

・作成は進んでいるか

・障がい者のニーズは反映されているか

・相談員の質は？

について討議、発表がされ、まず相談支援の充実・機能不足が指摘され、相談員の不足や質の差が大きく、また良い計画を立てること

ができて、サービスを実行する事業所が不足している場合もあるとの意見が多くありました。最後に全国的に六割が達成され、地方ほど終わっていて都心部ほど未達成な状況。行政よりセルフプランを進められる事があるようだが、現状を見るためのモニタリングがないので、相談支援を受けてほしいとお話がありました。

全肢連副会長 植松氏より、権利条約により、法的に変わってきており、当事者と家族も支援を受ける時代。親が頑張る時代は過ぎ、親の自立、尊厳も大切であり、同時に情報が入る今、若い人達と共に新しいことも取り入れていくことも大切とお話がありました。

御所市 藪内 美代子

地域指導者育成セミナーに参加させて頂きました。三宮までの間、堅苦しい雰囲気では、難しい内容ではと不安な思いで電車に乗っていました。三宮で本部役員さん達と合流し、一緒に食事をしながら雑談させて頂いていると、いつの間にか不安も消え難い話や内容は役員さんに任せておこうという気持ちになりました。(申し訳

ないです)そして今置かれている自分の子供の状態で考えようと思えました。

一日目の成年後見制度は、ただお金の管理をお任せするものと軽く思っていました。講師の先生は解りやすく説明して下さいました。が内容は複雑で難しいものでした。

二日目のサービス利用計画相談支援はあまり進んでおらず、相談員さんの不足や質の問題もあると話されていました。

現在、特に不満もなくサービスを利用して頂いています。でも、今後親の判断能力の低下や親亡き後の生活を考えた時、どちらも必要な支援だと思えました。セミナーに参加させて頂き、活字の情報も大事だけれど、様々な立場の方との交流の中で聞いた生の声の情報、人との繋がりには、私達のような重度の障害児を持つ親にとつては本当に必要なことだと思えました。このような機会を与えて頂きありがとうございました。



親子県外交流事業



デイズニー・オン・アイス大阪公演に参加して

奈良市 長濱 典子

八月九日(土)、県の父母の会の親子県外事業に参加させて頂きました。大阪城ホールで開催されているデイズニー・オン・アイス大阪公演を観に行きました。

二、三日前から、台風十一号がまともに関西に上陸するかもしれないとの予報が出ていました。当日の朝、戸外は暴風雨。行けるかしら?と心配になりました。

集合場所の福祉センターに行くまで運転が怖いくらい雨が激しく降っていました。大きなバスに乗ってからは台風のことを忘れて安心して、楽しく参加できました。

白雪姫、シンデレラ、ラプンツェル、おなじみのプリンセスたちが登場する、華やかなデイズニーのアイスショーでした。日常を離れた楽しいひとときを過ごしました。

何より、娘と二人バス乗って出掛けるなんて、何年ぶりかしらとわくわくしました。娘も楽しめた

ので、私もうれしく思いました。また、会員の方ともいろんなお話が出来て良かったです。

素敵な行事を企画いただき、ありがとうございました。ぜひ又、参加させていただきたいと思えます。最後になりましたが、企画から当日の進行まで、大変お世話をおかけしました役員の皆様方によりお礼申し上げます。ありがとうございました。

天理市 澤田 美千代

父母の会から今まで何度もお誘いがありましたが、本人のより好みが激しいのと人見知りが災いして毎回×。デイズニー・オン・アイスも噂に聞けばかりで、これまで未経験。でも、きつと神の声がしたのでしよう。やっと「行ってもいいよ」との許しが出て、初参加となりました。少し前に、テレビ番組で、今回のデイズニー・オン・アイスの魅力が紹介されているのを偶然観ていました。何となく知っているから、期待も倍増。

当日は、神の存在すら疑う豪雨。乗車時に雨が当たらないようバスを停めていただいているにもかかわらず、跳ね返った雨の粒が飛ん

でくる始末。降車時の心配をしながら出発しました。大阪城ホールに近づくと、大きな川の水位が今にも溢れんばかりに上がっていました。本人は、というところから、バスに乗ったところから、周囲に知っている人がいないため、少々パニック状態。ずっと『帰ろう』コールを聞きながらの道中でした。仕方なく、「着いたら帰ろう」と約束しました。心の中は、洪水状態。

大阪城ホールの駐車場に着くと雨は上がっていて、(みんな今のうち!)とてもスムーズに降りることが出来ました。神様はちゃんといますね。入ってしまったかどうかと思っていたのですが、手強い! 待っている間も『ミッキー来る?』の連発。着ぐるみが大の苦手なので、現れたら大パニックです。でも、時が経つと、不安ながらも少しずつ話ができる相手が見つかっていききました。

だんだん周囲の雰囲気馴染んできて、とうとう入場しました。観覧席に着くまでにデイズニーのグッズコーナーが並び、気持ちはデイズニー・オン・アイスに傾き始めてきました。もうこっちのものです。「見に行こか」「うん」♡お気に入りのTシャツを見つけて購入。そして観覧。「ミッキーは忙しいんやからこ



まで来れへん。」


と言いつつドキドキしていたんですが、ずつとドキドキしていたようです。帰りに「楽しかった？」とバスガイドさんに尋ねられ、「ミッキー嫌いやねん。」と答えて爆笑されていました。

なかなか思うように楽しめない我が子ですが、この日の経験で、一つ山を克服したように思います。(親の方が楽しんでたかもしれません。)このような機会をくださって、また、当日声をかけてくださった方々に大変感謝しています。ありがとうございます。

クリスマス会

♪木管五重奏とハンドアーチ  
エリーと食事を楽しむ会♪

社会見学事業



- ◆平成二十六年十二月七日(日)
- ◆奈良ロイヤルホテル
- ◆一〇八名



奈良市 寺見 秀子

十二月七日(日) 奈良ロイヤルホテル「鳳凰の間」で、盛り沢山で華やかなクリスマス会が開かれ

ました。

第一部はクリスマスコンサート。まず登場された杓掛クインテットの方々は、色取り取りのきらびやかなロングドレスや格好良い蝶ネクタイのステージ衣装に身を包み、聴く者をワクワクさせ、ちよつとした緊張へと誘ってくれました。そして第一曲目木管五重奏曲「ノベレット」へと、それは想像以上に見事な演奏で、私を一気に美しい世界へと引き込んで行き、退化しようとしている脳を力強く刺激して目覚めさせてくれました。音楽の力は大きいと実感するところです。

続く楽器紹介では、五つの管楽器を吹き方や音などを通じて分かり易く親しみ易く紹介して頂きました。難しい楽器としてオーボエとホルンがギネスブックに載っている事も初めて知った印象的な事柄でした。

メゾピアノとバリトンのお二人が加わって、ジブリの曲やドイツ二曲、ルパン三世、クリスマスメドレーなどの馴染みの曲が続き、素晴らしい歌声と演奏は感動の連続でした。特に今年の大ヒット曲「ありのままに」と最後に二人で歌われた「イタリア歌曲」は情感たっぷりに歌い上げられ、正統派の歌いっぷりに魅了されました。

た。メイジエイさんに負けません。

歌ったり手拍子したりと会場も一体となって参加した約一時間は瞬く間に過ぎ、目の前での生演奏は貴重な体験となりました。杓掛クインテットは、杓掛にある大学の学生さんとOBの方の構成だとか。進行の方の初々しい声はほつとする癒しの空間でもありました。アンコールは勿論「崖の上のポニョ」です。

第二部は食事会とハンドアーチエリー。次々と円卓に運ばれる御馳走はどれも食べ易く配慮されたもので、「おいしいね」を連発しながら和やかに進んでいきました。同時に開催された魅力的なハンドアーチエリーは、プレゼントのゲットを目指して全員が挑戦し大いに賑わいました。

息子貴久は、落ち着いた感じで楽しんでるようでした。音と会話を聴き入り、シャンデリアの輝きを眺め、ハンドアーチエリーにも意欲的で、お腹一杯の満足顔でした。

親子で共に充実した一時を過ごせた事をうれしく思っております。加えて、人の優しさと温かさに触れ、懐かしい人達にも出会えた事は、日頃テレビを友としている親子にとって何よりの大きなプレゼントになりました。

クリスマス会を計画、実行、協力して下さった皆様に心から感謝申し上げます。

奈良養護学校在校生

初めての参加でしたが、とても楽しかったです。

くっかけクインテットの生演奏は知っている曲があつて歌いそうになりましたが、皆の前なので恥ずかしくなかったので歌いませんでした。楽しい曲ばかりでした。

料理もたくさんできて全部おいしかったので全部食べてしまいました。おいしかったです。

アーチエリーは一回学校でやったことがあつたので高得点が出たうれしかったです。

また来年も行きたいと思いましたが、ありがとうございます。



本人部会

「一人暮らしの方の話を  
聞く研修会」



講師 秋山 知子氏

◆平成二十六年六月十四日(土)  
◆二十二名

秋山さんの話を聞いて

北葛城郡 桑原 恒子

高校生のころからいろいろな活動をされていて、外出などの体験を通じて自立の道を歩んでこられたお話でした。そのなかで、いろいろと相談に乗ってもらっている方に一人暮らしを、すすめられたそうです。一人暮らしを決めてから始めるまでは、マンションを借りることや準備などはトラブルが無いように自立支援協議会で情報などを聞きサポートを受けたそうです。準備を全部一人でしたわけではない、一人でしようと思わないとも言っておられました。移動中は何度か怖い思いもされているといっていました。それでも続けている精神力に感心しました。これまでで一番大変な思いをし

たことは病気になった時だそうで、それ以来体調に気を付けているとのことでした。そして「一人暮らしは、ゴールではなく、色んなことをやってみたいと思うきっかけでその気持ちを持っている人は、親が元気なうちに準備の応援をしてもらったほうが良いのであるべく早く動き出すほうが良い」と私たちに伝えてくださいました。

今は、さをり織の教室に行って毎日充実されているそうです。

私も二十年ほど前、四年間弱東京で一人暮らしをしました。その頃私は、どのような制度があったのか無かったのかも知りませんでした。私の障害ではアパートを借りるということは大変難しいというのでした。その時、同じ訓練センターに入る耳の聞こえない方もアパートを探していたので、不便を補いあうため同じアパートに住む、という条件で借りることができました。知人を通して「ボランティアさんを紹介しようか？」と言ってくれたこともありました。ですが、人に部屋へ入っていたのは恥ずかしいという思いや、やれば出来るかもしれないと思っただけでお願いしませんでした。(強がりが出たのでしょうか)今思えば、もつと、気楽に人にお願いが

できていたら、一人暮らしも続けられていたかもしれません。いろんな思いを乗り越えてきて秋山さんから、学ぶことがたくさんありました。今は家族のもっと何もかも助けてもらえているので、この生活を変えるには少し時間がかかる気がします。

樫原市 黒木 浩喜

六月十四日に本人部会で、一人暮らしをしている人の講演会に行きました。納得する話もあつたけど、大変さもよくわかりました。

僕の心に残っているのは、一人暮らしとは、まったくの一人生活ではなくて家族以外の人に助けってもらって生活していることなんだなあと思いました。

頼む時でも両親や兄弟ではなく、自分の周りの人に頼むことが、一人暮らしができる一つのきっかけもよくわかりました。

それから、一人暮らしをしている時に、自分が風邪や病気になった時の対応や辛さもよくわかりました。

いい話を聞かせてもらって、いい刺激になったし、自分にとっていい勉強になりました。一人暮らし

しにたいして、自分の足りない部分見つけることができました。ありがとうございました。

桜井市 福土 佳余

私もよいべんきようになりました。

一人暮らしのお話を聞いて自分一人では、なにもできないところがあるみたいですが、ヘルパーさんや色々な人たちにたすけてもらって一人暮らしを目ざしていきたいと思えます。

また色々な一人暮らしのお話をもっと聞きたいと思いました。

生駒郡 植田 小百合

一人暮らしをされている方のお話を聞いて良かったです。私も何回か一人暮らしをやりたいと思っただけもありました。私の意志が弱いのかなと思いました。



生駒市 漸井 健

秋山さんの大切なお話を聞かせていただきありがとうございます。話を聞いて、自分ひとりの力だけでは一人暮らしはできない、周りの人たちの協力があつて成り立つのだと改めて感じました。一人暮らしで一番心配なことは身体を悪くしたり、災害とかあるときです。僕も実家を出て暮らしていますが、そのことが本当に不安です。だから今後そういうことがある前に周りの人との付き合いを大事にして自分がいることをわかってもらう必要があります。今回の話を参考にさせていただきます。

みやびのぞと  
雅乃郷 米田 雄一朗

先日はありがとうございます。僕は将来的に一人で外出が出来るようになる事を目標としているのでとても勉強になりました。またお会い出来る日を楽しみにしています。今回は本当にありがとうございます。

奈良県肢連では二つの  
訓練会の支援をしています

仔鹿会



一年間の活動を終えて

会長 坪田 充代

平成二十六年も沢山の方々のご支援のもと、月例会、ミニミニキャンプ、夏の療育キャンプ、心理リハビリテーション全国大会(長野)と二年間の活動を無事に終えることが出来ました。今年で四十五回目となった夏の療育キャンプは、福岡県のしいのみ学園の理事長をしてられる昇地勝人先生をキャンプ長に迎えて開催しました。今回のキャンプは、六歳〜三十四歳までと幅広い年齢層の方の参加があり、キャンプ長の明るく元気なお人柄のおかげで、元気いっぱいこのキャンプとなりました。私自身は娘と参加するようになり今回で六回目のキャンプでしたが、訓練を重ねるとともにトレーナーの体だけでなく表情にも変化が見られ、集団活動や寝食を共にする中で心のつながりや絆の深さが増して、大きな家族のようなひとつのキャンプが作り上げられていく素

晴らしさをあらためて感じたキャンプでした。子供だけでなく一緒に参加する親も学ぶことの多いキャンプです。このような素晴らしいキャンプを開催するにあたり毎年変わらずご支援くださる奈良県をはじめ教育委員会、各企業の皆様、県肢連の皆様、各個人の皆様に心から感謝申し上げます。

今年長野で行われた全国大会のテーマは「生涯にわたり動作法と向き合える環境作り」でした。動作法が行われるようになり半世紀、仔鹿会の活動も四十年余りを過ぎ、現在会員の半分が成人です。かつて月例会やキャンプに参加されていてその効果や必要性を感じておられていても、親の高齢化や様々な理由により参加することが難しくなっている方もおられます。このテーマは仔鹿会にとってもこれからの課題だと感じました。この大会では事業所に勤めておられ、月例会やキャンプにも参加してくださっている脇田さんが、奈良養護学校の原先生と「成人期の動作法の活用」としてご自身の動作法との出会いや、施設で取り組まれた経験などを発表されました。発表後の質疑応答の中では、全国では動作法を広めていくことが難しく苦労が多いといわれるなか、事業所の方がキャンプにまで参加し

て動作法を学び、トレーナーとなって取り組んでおられることは、奇跡的なことだとおっしゃった人もいました。現在仔鹿会には脇田さんだけでなく、桜井市にある万葉介護サービスセンターの職員さんたちも、お忙しいなか動作法を学ぶために毎月月例会に参加して下さい、施設でも取り組んで下さっています。卒業後、成人してからも自立的に体と心の健康を保ち続けるためには体のフオーローが必要ですが、その機会が減り身体の悩みを抱えて生活されている人も少なくありません。生活介護の事業所でその必要性を感じて下さり動作法を取り入れてもらえることは子供達にとって本当にありがたいことです。仔鹿会も多くの人に動作法を知って頂き学んでもらえる場所として、また学齢期だけでなく生涯にわたり動作法訓練を続けていける場所としてこれからも活動を継続していけるように私たち保護者も努力していかなければ・・・と感じた全国大会でした。

平成二十七年も子供達を温かく見守り支援して下さいる方々に感謝しながら、会員皆で力を合わせて活動していきたいと思えます。本年も仔鹿会の活動に皆様のご指導と、ご協力をよろしく願います。



陽だまり笑顔の会



静的弛緩誘導法  
〜集中学習会の思い出〜

会長 岡崎 美奈子

静的弛緩の学習会は、毎月一回の定例学習会と年に一回の集中学習会があります。今回は毎年九月に催される二日連続の集中学習会の概要と思い出を紹介します。

まず、事前に個々の問題や課題についての調査があります。その時に掲げた課題にそって学習会で個別訓練が行われます。

当日、東京から指導にいられた志垣先生を中心に全体で行う『あかちゃん運動』に引き続き、担当の先生と一緒に個別課題に取り組みます。

二日目には個々の取り組みの中から家庭で持続可能な訓練の指導があります。それを持ち帰り、実践し、新たに出てきた問題を月例学習会で分かち合っています。

今回この集中学習会では志垣先生と一緒に指導にいられた石毛先生のお話を聞く機会もありました。

石毛先生も筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校で長年教師をされていました。その学校で、ある吸痰を必要とする生徒さんがからだで

反応を示すというお話を紹介して下さったのです。

学校には複数の看護師さんがおられ、言葉掛けをしながら丁寧な人など色々おられるらしいのです。生徒はそれをよく理解していて、荒っぽい人が来るとからだを硬くして拒否をする。丁寧な人が来るとからだを柔らかくして受け入れるというエピソードでした。返事を言葉で返せないと、障害を持つ子供に対しておろそかになりがちな言葉掛けや丁寧な手技やゆったりとした気持ちを喚起させてくれる印象深い話でした。

二日間はあっという間に過ぎ去りました。今は月例学習会でみんなに会えるのを楽しみに日々悪戦苦闘しています。



祝 成 人

- |     |         |
|-----|---------|
| 奈良市 | 今井 啓介さん |
|     | 栗川 早希さん |
|     | 田村 美咲さん |
| 生駒市 | 村佐 桃子さん |
|     | 井上 彩乃さん |

今後の行事予定

- ☆本人部会バスツアー  
日にち：平成27年3月14日(土)・15日(日)  
場 所：リニア・鉄道館、
- ☆第46回 奈良県肢連総会  
日にち：平成27年6月4日(木)  
場 所：県社会福祉総合センター  
5階研修室B・C
- ☆第50回 近畿肢体不自由児者福祉大会  
滋賀大会  
日にち：平成27年7月11日(土)  
場 所：栗東芸術文化会館さきら
- ☆第13回 チャリティー墨書展  
日にち：平成27年9月5日(土)・6日(日)  
場 所：奈良県文化会館 B展示室
- ☆第48回 全国肢体不自由児者  
父母の会連合会全国大会  
日にち：平成27年9月12日(土)・13日(日)  
場 所：サンポートホール高松

編集後記



今年元旦に初雪が積もり、あたり一面真っ白な銀世界に包まれました。新たな気持ちで今年も一年よろしくお願ひします。

今回も皆様よりお忙しい中ご寄稿いただき、ありがとうございます。行政のお力添えや多くの方々の温かいご支援に支えられていることに改めて感謝申し上げます。

会員の皆様にはこの広報誌からさまざまな情報を得ていただき、会の行事や活動に次は参加してみたいと感じていただければ嬉しく思います。

今年二度のチャリティー墨書展があり、そして地域指導者育成セミナーの開催県となっております。皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

まだまだ寒さは厳しいですが、どうぞご自愛ください。